

理事会	第1号議案資料
-----	---------

評議員会	第1号議案資料
------	---------

令和8年度 事業計画書

自 令和8年4月 1日

至 令和9年3月31日

東京都千代田区丸の内一丁目6番1号

公益財団法人 日立財団

目 次
(令和8年度事業計画書)

はじめに	1
1. 学術・科学技術の振興	1
1. 1 倉田奨励金	1
1. 2 日立財団科学技術セミナー	2
1. 3 日立財団アジアイノベーションアワード	2
2. 人づくり	4
2. 1 理工系人財育成支援事業	4
(1) 日立みらいイノベータープログラム (小学生向け)	4
(2) 理工系応援プロジェクト (中・高生向け)	5
3. 多文化共生社会の構築	5
3. 1 「多文化共生社会の構築」	5

はじめに

当財団は、日立の財団活動の原点となる旧5財団の創設者たちの熱い思いと、理念を継承しつつ、「学術・科学技術の振興」、「人づくり」、「多文化共生社会の構築」を中核的な事業領域に据えて、日立グループのこれまで蓄積してきた経験・ノウハウを生かしながら、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)も視野に入れ、国内外の社会ニーズに応じた活動を展開している。

理工系女子応援プロジェクトは、弊財団が社会の動きにあわせて平成27年度から本事業に取り組んできており、女子中高生の理工系進学モチベーション維持・向上を支援することを目的としてきた。令和7年度は、①女子中高生当事者への応援だけで十分か、②当事者を取り巻く周囲への理解訴求、③社会的バイアスの存在と認知という、事務局の問題意識を確認するために、調査イベントを実施した。令和8年度は、事業目的は変更なく、引き続き女子の理工系進学支援を主に据えながら、前述の調査から得られた材料をもとに女子中高生だけではなく、周囲を取り巻く方々にも理解を求めて事業の目的達成に向け活動していくこととした。

令和8年度の事業計画概要を以下に示す。

1. 学術・科学技術の振興

1. 1 倉田奨励金

倉田奨励金の助成事業については、令和7年度までに1,696名の研究者に総額

約27.1億円を贈呈し、研究活動の支援を行ってきた。

令和元年度から新たに高度科学技術社会が抱える複合的な諸問題を読み解き、通底する人文・社会科学分野の研究に助成を行っており、先駆的な助成事業として認知されている。

令和8年度、第58回となる本事業の内容は下記の通りとする。

1) 助成対象

1 自然科学・工学研究部門（研究期間1年、または2年）

国際的な視野で社会課題の解決に資する、若手研究者（45歳以下）による独創的・先駆的な自然科学・工学研究。対象は下記3分野とする。

I. エネルギー・環境分野

II. 都市・交通分野

III. 健康・医療分野

2 人文・社会科学研究部門（研究期間1年）

科学技術の進歩がもたらす社会の変容、その背景に潜む複合的な諸問題を

人文・社会科学の視点（社会、文学、歴史、哲学、倫理、法制度、経済学、心理学、文化・芸術等）から読み解き、科学技術の発展の意味や価値と社会のあり方を探究する研究。

2) 奨励金額

奨励金総額は、6,000万円とする。

3) 応募の条件

日本国内の大学およびその附属研究施設、研究機関、高等専門学校に所属する研究者（株式会社に所属する研究者は除く）を対象とする。ただし国籍は問わない。

4) 募集の案内

令和8年7月1日に日立財団ホームページに募集案内を掲載する。

5) 応募締切り 令和8年9月中旬

6) 選考委員会 令和8年12月

7) 受領者決定 令和9年1月

8) 贈呈式・研究報告会 令和9年3月初旬

9) 研究報告

研究期間を終えた受領者の研究報告を研究報告書の発行、および研究報告会の開催をもって広く一般に公表する。

1. 2 日立財団科学技術セミナー

一般市民が最先端の科学に触れる場を提供する講演会形式のセミナーを開催する。6月頃にテーマと講演者を選定し、10～12月に実施予定。

1. 3 日立財団アジアイノベーションアワード

ASEANの社会課題解決と持続可能な社会実現に資する科学技術イノベーションを促進するために、令和2年度から開始した表彰事業。令和8年度の募集概要は下記の通りとする。

1) 表彰対象

持続可能な開発目標（SDGs）への貢献に資する科学技術イノベーションを促進することを目的とする。

あるべき社会像を描き、科学技術の社会実装を計画に入れた優れた研究および研究開発において、画期的な成果（論文発表、学会発表、特許取得など）をあげ、明らかに公益に供したと思われる個人またはグループを表彰する。

2) 募集内容

募集においては、SDGsにおける、17のゴール及び169のターゲットのうち、応募者がメインのゴール1つとターゲット1つを選定し、これらに貢献すると考えられる研究および研究開発のテーマ例を設定して応募する。

3) 表彰内容・金額

最優秀賞 (最大 2件) 副賞 賞金 300万円/件

優秀賞 (最大 6件) 副賞 賞金 100万円/件

上記以外に、優秀賞に準ずるものとして、奨励賞を贈呈することも可能とする。

奨励賞は、最大10件とし、1件あたりの賞金は50万円程度とする。

4) 応募の条件

対象国については、SDGs の趣旨である底上げおよび限られたリソースの効果的配分という従前の方針を維持する。そのうえで、令和7年度と同様の6か国（カンボジア、インドネシア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、ベトナム）に加え、ASEANに加盟した東ティモールを追加し、全7か国とする。対象大学・研究機関は、科学技術系を中心とした理系分野の強み、SDGs の趣旨との親和性、過去の応募状況、地域バランスなどを総合的に勘案し選定している。応募者は、母国における対象大学に在籍し、母国にて研究および研究開発を行っている、教職員、研究者、または学生とし、所属学部または部門長以上の推薦書があることを条件とする。

令和8年度の対象国、対象大学、研究機関は下記の通りとする。

アルファベット順)

カンボジア	カンボジア工科大学
	国立バットアンバン大学
	王立農業大学
	王立プノンペン大学
	プティサストラ大学
インドネシア	ガジャマダ大学
	ボゴール農科大学
	スラバヤ工科大学
	インドネシア大学
	北スマトラ大学
ラオス	国立農林研究所
	ラオス国立大学
	サバナケット大学

	スファヌボン大学
	ラオス保健科学大学
ミャンマー	マンダレー大学
	ヤンゴン大学
	ヤンゴン工科大学
	イエジン農業大学
フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学
	デ・ラ・サール大学
	イフガオ州立大学
	ミンダナオ州立大学
	フィリピン大学ディリマン校
	フィリピン大学ロスバニオス校
東ティモール	ディリ工科大学
	東ティモール国立大学
ベトナム	ハノイ工科大学
	ホーチミン市工科大学
	フエ大学
	トンドゥックタン大学
	ダナン大学

- 5) 募集案内 令和8年4月初旬 対象大学・研究機関に案内送付
- 6) 応募締切り 令和8年6月下旬
- 7) 選考委員会 令和8年7～8月 一次選考（書類選考）
令和8年9～10月 二次選考（含、オンライン面接）
- 8) 受賞者決定 令和8年10月
- 9) 表彰式 令和8年11月初旬（オンライン開催を予定）

2. 人づくり

2. 1 理工系人財育成支援事業

(1) 「日立みらいイノベータープログラム」（小学生向け）

「イノベーション創出」ができる次世代の理工系人財を育てることを目的に独自に開発した、問題発見・課題解決のプロジェクト型探求学習プログラム。日立製作所、並びに日立グループの社員が企業講師として参加する出張授業で、問題発見・課題解決の方法を児童にアドバイスし、成長をサポート。

令和8年度は、9校（茨城県日立市、埼玉県戸田市、埼玉県三芳町、東京都渋谷区〔2校〕、静岡県熱海市、岡山県笠岡市、山口県下松市、大分県大分市の小学校）向けにプログラムを実施予定。一部出張授業や講師人選、講師研修等を日立グループ会社に委託し、実施校拡大を図る。

(2) 理工系女子応援プロジェクト（女子中高生が主体）

理工系人材育成の一環として、女子中高生の理工系進学モチベーションを支援するため、男女の役割に無意識のうちに影響を及ぼす「ジェンダーバイアス」の存在を自ら認知し、将来的に自分の興味ある仕事を選択できる社会の構築を考えるイベントを開催する。

3. 多文化共生社会の構築

3. 1 「多文化共生社会の構築」

国内のみならずグローバルな社会課題である多文化共生社会の構築に向けて

下記事業を実施する。

（注）多文化共生社会：国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく社会

（出典、総務省）

多文化共生社会の構築の一助とし、令和元年度から開催してきたシンポジウムやフォーラム等にて得られた知見、ネットワーク構築の実績を踏まえ、各関連学術分野の有識者と協働し、学術分野間の情報交換と連携を促すプラットフォームとなる電子ジャーナル「日立財団グローバルソサエティレビュー」を令和5年12月から発行。

令和8年度は年2回（第6号、第7号）発行、日立財団ホームページに掲載する。各号ごとに編集委員会にて決定する特集（テーマ）により、構成（コンテンツ）を検討して、外部執筆者・協力者とともに内容の作成・編集を経て、発行する。

以上